

# 終戦直後の〈カストリ雑誌〉の総合的研究

研究年度・期間：平成20年度

研究ディレクター：山縣 熙  
(文芸学科 教授)

共同研究者：松井 桂三 (デザイン学科 教授) 藪 亨 (教養課程 教授) 田中 敏雄 (教養課程 教授) 相羽 秋夫 (芸術計画学科 教授) 長谷川郁夫 (文芸学科 教授)  
豊原 正智 (芸術計画学科 教授) 井関 和代 (工芸学科 教授) 月溪 恒子 (音楽学科 教授) 出口 逸平 (文芸学科 准教授)

第二次大戦後の飢えと混乱の時代には、「カストリ雑誌」と称された大衆娯楽雑誌が、出版の自由に乗じて巷に約千種類も出現し、大衆文化の新しい領域を開いている。これらの雑誌の特徴のひとつは、直接に性風俗を取り扱っているところにあり、著名なそしてまた後によく知られることになる文芸作家や挿絵画家も性風俗をモチーフにした本文や挿絵・漫画をしばしば掲載している。本研究は、こうした「カストリ雑誌」を、文芸、美術、デザイン、工芸、建築、映画、音楽などの多角的な視座から個別的に、また社会文化史的に調査研究するとともに、その芸術文化史的な意味を理論・批評・歴史等の視点から総合的に考察することを目的とする。また本共同研究は、本学大学院・芸術研究科・カリキュラムに〈プロジェクト研究〉研究課題として組み込まれ、教員・院生が一体となって研究するという新しい教育研究方法の試みであると共に、研究の経過ならびに成果を同時に学内外に向けて積極的に情報発信するものである。

そのために教員（10名）と大学院生（修士課程10名、博士課程5名）からなるプロジェクトチームが組織され、毎週金曜日5時限に研究会（研究テーマ別研究会と全体研究会）が開かれた。そして、次の三つの見地からカストリ雑誌の調査・研究を進めた。

1)、週刊読物誌、風俗誌などにおける「カストリ雑誌」の在り様や、文芸誌、一般文化誌などと「カストリ雑誌」との関係を調査研究し、さらにはこれらに掲載された文芸作品や挿絵を調査研究し、占領下における芸術家たちの活動を考察した。

2)、音楽・舞踏・演劇・映画に関する雑誌群における「カストリ雑誌」の在り様について調査研究し、占領期の大衆文化の実相について考察を深めた。

3)、美術・工芸・建築・写真・デザインに関する専門雑誌群と「カストリ雑誌」との関係を調査研究し、占領期の美術とデザインの動向について考察を深めた。

その際に上記いずれの場合にも、米国メリーランド大学所蔵「プランゲ文庫雑誌コレクション」マイクロ・フィッシュ版の「一般誌部門、芸術・言語・文学部門、小冊子分類70番」（本学図書館所蔵）と、初年度から3年度にかけて購入したカストリ雑誌関係書誌（20冊）、カストリ雑誌（949冊）、その周辺雑誌を含むカストリ雑誌（492冊）の調査・研究を深めた。さらに、カストリ雑誌（「宝石」381冊）と関連資料を調査し購入するとともに、米国メリーランド大学所蔵「プランゲ文庫新聞コレクション」マクロフィルム版の「芸術・娯楽・スポーツ部

門」および「文芸部門」から総計35リールを選択・購入し、「カストリ雑誌」研究のデータ・ベースの構築をさらに推進した。そしてその成果の一端を、大阪芸術大学図書館所蔵品展・終戦直後の大衆娯楽雑誌「カストリ雑誌の挿絵—『ロマンス』と『りべらる』」（平成20年9月5日－10月4日）において報告した。

さらには本年度の研究成果に関して、以下の研究グループ課題に基づいて、研究報告書を作成した。

- (1) 山縣グループ
  - 1、戦後民主主義とカストリ雑誌
  - 2、カストリ雑誌に見られる性表現の諸相
  - 3、戦時文化と戦後文化
  - 4、カストリ雑誌の社会文化史的位置
- (2) 長谷川グループ
  - 1、カストリ雑誌と出版・編集
- (3) 藪グループ
  - 1、カストリ雑誌におけるタイポグラフィック・デザインの変容
  - 2、カストリ雑誌の表紙デザイン
  - 3、カストリ雑誌の書誌一覧
- (4) 田中グループ
  - 1、カストリ雑誌の挿絵
  - 2、カストリ雑誌における外国文化の受容
- (5) 松井グループ
  - 1、現代版カストリ雑誌の制作
  - 2、カストリ雑誌とファッション
- (6) 相羽グループ
  - 1、カストリ雑誌と笑い
- (7) 井関グループ
  - 1、カストリ雑誌における広告とその表現法
- (8) 豊原グループ
  - 1、カストリ雑誌における映画・写真
- (9) 出口グループ
  - 1、カストリ雑誌における演劇
- (10) 月溪グループ
  - 1、音楽関係の問題